

## GEO STORY 風景から見る地球のものがたり

### 🔍 駐車場から見た中浜

ジオパーク 専門員・今井 悟



集落に続くくねくね道と、その先に覗く海。私にとって、この景色は大浜や中浜を象徴するものです。そして、このくねくね道沿いでは少し変わった地層を見ることができます。写真左側の崖には、水切り遊びに良さそうな、角が取れた平たい石がたくさん含まれています。この平たい石と同じ形をしたものが、石ころの多い浜辺に無数に落ちています。そのため、この地層は波打ち際周辺でできたかと推測できます。大地の隆起と海水面の変化によって、現在の海面から 20～30m も高い場所にかつての波打ち際の痕跡が残されているのです。

足摺半島地域の沿岸部には、大地の隆起と海水面の変化によってできた海成段丘という地形が見られます。(詳細を知りたい方は、ぜひ電車ビジターセンターへ) 海成段丘は、かつて浅い海の底だった緩やかな斜面である「段丘面」と、波に削られてできた急な斜面である「段丘崖」が繰り返して階段のようになっているのが特徴です。先ほど見た平たい石でできた地層は、この段丘面が浅い海だった頃にたまったものです。ちなみに、土佐清水で「駄場」と呼ばれる場所は、段丘面であることが多いです。

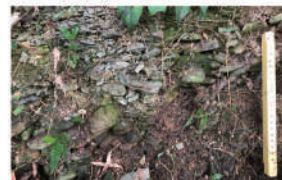
足摺半島南部をめぐる県道 27 号は、ほとんどの場所で段丘面を通過しています。松尾から津呂にかけては、県道も集落も段丘面を中心につくられており、両者の間にそれほど高低差はありません。一方、中浜や大浜では、現在の県道は段丘面を通過していますが、集落が築かれているのは段丘面の下にある小さな川沿いの低地で

中浜小学校下の芝ノ内のバス停付近からの眺め (2019年撮影)



す。冒頭に述べたくねくね道は、段丘崖がつくる急斜面を昇降するために築かれた、かつての県道なのです。

なぜ中浜の人たちは、段丘面よりも川沿いの狭い低地を居住地に選んだのでしょうか？ 段丘面の方が土地は広いし、水を得るのは少し大変ですが、湿気が少ないので日々の暮らしは快適でしょう。畑仕事に向かうにも幾分か楽です。そして、地震や津波、洪水といった自然災害のリスクが少ないのも大きな利点です。実際、中浜には地震や津波の被害を今に伝える石碑が 2 基残されています。それでも先人たちが海に近い低地を選んだのは、廻船業や鰹節製造、漁業といった海での生業が、何にも代え難い大切な営みだったことを示しているのかもしれない。



波打ち際でできた地層の様子。角が取れた平たい石がぎっしり入っています。

## 爪白に眠る石柱群を見に行こう！



684年に起こった白鳳地震で海に水没したと云われる伝説の村「黒田郡」。高知県内には黒田郡にまつわる伝承が多く残されています。「うみのわ」からすぐ近くの爪白の海底にも石柱など人工物が水没していることから、黒田郡に関わる研究が行われてきました。今回は、この黒田郡の謎を追っている JAMSTEC (海洋研究開発機構) の谷川亘先生による講演会と、シュノーケルで海に出て、実際に石柱を見に行くフィールドワークを行います！

日にち 2020年8月22日(土)  
場所 竜串ビジターセンターうみのわ

講師 谷川 亘 氏  
国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 主任研究員

講演 時間 10:00～11:00  
参加無料 定員20名 要事前申込

フィールドワーク 「シュノーケリングで爪白石柱群を覗いてみよう」  
時間 13:00～15:00

参加料 1,000円 定員15名 要事前申込  
参加者には、新型コロナウイルスへの対応にご協力いただきます。

詳細は、土佐清水 GP 構想\*うみのわ WEB サイトをご覧ください。

爪白の海に会いに来て！



お詫び  
前月号ジオパークだよりにて、配慮に欠く不適切な表現がございました。ご不快の念をお掛けし、深くお詫び申し上げます。今後はこの様なことのないよう心掛けて参ります。

